第４回 西宮市緑の基本計画改定検討会　議事録（発言要旨）

■日　　時：平成 31 年 4 月 15 日（月） 10:00～12:00
■場　　所：西宮市 職員会館 １Ｆ 第２中会議室
■出席委員：平田座長、梶木副座長、栗本委員、粟野委員、長岡委員
■事 務 局：公園緑化部長　他 9 名
■議　　事：(1) アンケート調査結果について
①一般向けアンケート調査結果
②子ども向けアンケート調査結果
(2) 第３回 改定検討会におけるご意見について
(3) 計画（素案）について
①行動計画（施策）について
(4) 2019 年度 計画改定スケジュールについて

■議 事 録：（「⇒」は意見･質問に対する回答又は関連する意見等を示す。）

（１）アンケート調査結果について

① 一般向けアンケート調査結果

・「緑化･緑地保全活動への関わり」(p. 29)のグラフについて、「0 個」のグループの結果が記載されていないのはなぜか。【委員】
⇒ 「0 個」のグループの方は、そもそも活動されていないことから、各活動内容の実施状況も全て 0%になるため、図からは除外している。【事務局】
⇒ 本図は、活動されている人がどのような活動をしているのかを表したグラフである。全体の 1,777 件の中には「0 個」のグループも含まれているという理解か。【委員】
⇒ 全体の分析としては 1,777 件で行っているが、「0 個」のグループの人はそもそも活動されていないため、たとえ「0 個」の凡例を付けたとしても、図として表れてこないものと考えられる。【委員】
⇒ 承知した。【委員】

・ p. 17～19 のグラフについて、割合ではなく、積上げグラフで表現した意図は何か。母数に引っ張られて評価しづらいのではないか。【委員】
⇒ 積上げグラフとした意図は、北部地域と南部地域では母数に大きな違いがあることから、その状況が分かるように示したものである。【事務局】
⇒ 北部の母数は少ないため、どんなに頑張って活動されていても、その状況が見えづらくなってしまうことが懸念される。【委員】

・「緑化･緑地保全活動への関わり」(p. 13)のグラフについて、「今後やってみたい」と回答した人がどのような属性の人なのかを見てみると面白いかもしれない。また、０を１にすることは大変難しく、現状活動していないが「今後やってみたい」と回答した人を少しでも実際の活動に導くための施策をどのように構築するかがポイントとなると思われる。【委員】

② 子ども向けアンケート調査結果

・小学校を６校抽出されているとのことであるが、その位置関係はどうなっているのか。【委員】
⇒ 図示しないと分かりづらいが、各地域をおおむね東西に分けてそのうちから１校ずつ抽

出している。また、周辺の公園の配置状況からすると、一人当たりの公園面積の少ない校区から抽出している。【事務局】

⇒ 抽出の考え方については、改めて補足させていただく。【事務局】

・ アンケートは具体的にどのような方法でされたのか。【委員】

⇒ 学校の中で、先生に説明してもらいながら行った。なお、甲東小学校については、一旦家に持ち帰り、保護者に見ていただきながら回答していただいている。【事務局】

・ 防災公園の需要が高かったのは特徴的であった。施策的にも取り上げやすいのではないか。【委員】

⇒ 震災の風化といったことも言われるが、これまでの取組が効いているのではないかと思われる。【事務局】

⇒ 特に JR 以南の子どもたちの割合が高かったことは、津波等の影響もあるかもしれない。今後は、逃げ込むことができる公園づくりに留まらず、防災について、楽しみながら学べる公園づくりが望まれる。【委員】

・ 「公園での遊び方」(p. 4)に関して、公園によってはボール遊びができないところもあろうかと思う。そうしたボール遊びは市が禁止しているのか、又は地域が禁止しているのか。【委員】

⇒ 市としては、危険な遊びや試合形式でなされるボール遊びは禁止しているが、ボール遊び自体を禁止してはいない。ただし、地域との話し合いの中で、禁止とする場合もある。【事務局】

・ 「公園での遊び方」(p. 4)に関して、最近の子どもは「かくれんぼ」をしなくなっている。なお、鬼ごっこのバリエーションは多数ある。【委員】

・ 「公園で遊ぶ頻度」(p. 3)及び「公園での遊び方」(p. 4)に関して、「遊ばない」と回答する子も一定数いるようである。【委員】

⇒ 特に甲東地区においては大人数が集まれる公園が不足している状況ではある。【事務局】

⇒ 「遊ばない」という回答は、遊べないのか、遊びたくないのかは不明である。【事務局】

⇒ 読書が好きな子も一定数いるのではないか。外で遊ぶことだけが全てではないと思われる。【委員】

⇒ 公園で遊ばないとした子が緑の割合の多さに反して、特に北部地域で顕著である。【委員】

⇒ 北部は公園に行かなくても遊ぶところがある、ということか。【委員】

⇒ 平日は学童保育があって公園で遊ぶ子は少ないが、休日はたくさんの子が公園で遊んでいるのでは。【委員】

③ 一般向けアンケートと子ども向けアンケートとの比較について

・ 子ども向けアンケート調査の「残してほしい自然」(p. 8)では、「生態系を保全する自然」が最多であったが、一般向けアンケート調査の「緑化･緑地保全活動への関わり」(p. 13)では、自然環境保全活動への参加状況は１％程度となっている。こうしたギャップを踏まえると、保全活動への参加を増やしていかないと子どもたちが求める「生態系を保全する自然」を残すことができないのではないか。【委員】

⇒ 一般向けアンケート調査の「緑のまちづくりに対する期待」(p. 7)でも、「山･川･海の貴重な自然環境を守る」が最多となっていることから、大人も分かってはいるが行動できていない状況が見て取れる。【委員】

⇒ 「緑化･緑地保全活動のために市に支援してほしいこと」(p. 30)を見ると、市に支援して

ほしい内容として、活動されていない方も「助成など経済的な支援」を多数挙げられている。こうした状況から、資金があれば活動してもらえるものなのか。又は、予算を付けて市主導で行ってもらいたいという表れなのか。【委員】

⇒「経済的な支援」について、市の方針としてはどうなっているのか。【委員】

⇒ 市としての取組としては、人材育成の仕組みとして講習会や勉強会の開催などを行っている。「経済的支援」の内容については、助成金あるいは資材面などの支援か中身は不明であるが、金銭的な補助金という形ではなく、活動に関わる資材の提供等による支援は行っている。【事務局】

⇒ 経済的な支援は、行政としては一番簡単な方法であると考えられるが、大切なことは、技術を身に付けてもらうことであり、計画(素案)にも挙げている「人と人とのつながり」も鑑みて、現在活動を行っている方のみならず、「今後やってみたい」と回答した人をどうつなげていくかが重要と考えている。そのため、「経済的な支援」に多くの方が期待されてはいるが、市の考え方が十分伝わっていないという点に関して、今後の施策に反映していく必要があると考えている。【事務局】

⇒ 他のアンケートを見ても、「花と緑のまちづくりリーダー」について、高い割合で興味を持たれているのにもかかわらず、実際、リーダーや活動者が増えていないのは、伝え方が不十分であるためと考えられる。【委員】

⇒ アンケートの構成として、「経済的な支援」は丸が付けやすい項目であると考えられる。活動される方がどのような支援を期待されているかを把握する必要があり、どういった支援であれば、受け手側として“次につながる”支援となり得るのか。【委員】

⇒活動は、経済的な支援よりも交流を楽しむ方向に持っていければ長く続けられると思われる。【委員】

⇒ 予算の使い方として、ばらまきするよりも、グループ同士や地域とのつながりを促進するような使い方をした方がよいということか。【委員】

⇒ そうした方針を、市として明確に打ち出すとよいと考えられる。【委員】

・ 「緑化･緑地保全活動への関わり」(p.13)のグラフについて、「子･孫の付き添い含む」とした活動内容の「今後やってみたい」と回答した人の割合が 1/3 程度と比較的高く、これを子育て世代に限るともっと高くなるかもしれない。また、子ども向けアンケートの「欲しいと思う公園」(p.5)に示されているような「木登りや泥遊び、基地づくりなどができる公園」といったように、大人が子どもと一緒に何かをつくるといった活動もあってよいと考えられる。【委員】

・ 一般向けと子ども向けのアンケートは比較して見えてきたこともあった。また、緑化･緑地保全活動については、「今後やってみたい」という潜在層を顕在化させるための取組が重要であり、計画策定に当たっては、どのような仕掛け･仕組みをつくるのかということと、どのような場を用意するのかということについて留意されたい。【委員】

（２）第３回 改定検討会におけるご意見について

・ 特に意見等なし

（３）計画(素案)について

① 行動計画（施策）について

・ 市民の積極的な参画に係る視点があるとよい。原案の内容は控え目に書かれ過ぎているので

はないか。「Ⅱ みどりが育む“豊かな暮らし”」の(2)に市民協働とあるが、「公園美化」に留まっており、「活用」の視点が含まれるとよいと考えられる。【委員】

・ アンケートで指摘された内容を反映していってはどうか。子育てに関するところは、子どもの場所づくりだけではなく、親世代の参画も含めたものとするとよい。また、子どもの逃げられる公園、緑化･緑地保全活動への参加、グループのつながりの促進、といった内容が新たな指標として加わってもよいのではないか。【委員】

⇒ つながりという観点からは、学校だけではなく、学童や幼稚園、保育園等との連携も有効ではないか。共働きが休日に親子で参加しやすい近所の公園で開催されるワークショップ等も魅力を感じる。【委員】

⇒ そうしたモデル事業を〇箇所する、といった指標もよいのではないか。【委員】

⇒ 子どもと一緒に楽しむ場所としては、現状、小学校が圧倒的に多いと考えられる。ただし、活動内容としては、緑化や緑地保全に関わるものというよりは、昔遊びなどの地域の方が得意とする分野が多い。こうした活動の中にみどりに関する活動を組み込むことができるとよいのではないか。また、公園での遊びについて、小学生は公園にとどまらず、校庭を活用している面もあることから、学校を拠点にして活動がなされるとよいと考えられる。【委員】

・ 享受するだけではなく、積極的な関わりを促進する視点が重要である。子どもに自然の中でしてみたいこととたずねると、どうしても「バーベキュー」「川や海での水遊び」「山登りやピクニック」といった非日常の遊びや活動が上位にきてしまうが、身近な自然やみどりでの気付きが重要ではないか。学校での活動についても、先生が必ずしも関わらない放課後等での実施もあり得るのでは。また、防災について、計画の中であまり触れられていないのではないか。非常時の対応も重要ではあるが、日常的に意識できる仕掛けが必要ではないか。【委員】

⇒ 防災関係については、避難所は小学校等で指定されているが、公園においては、避難生活となった場合に補足的に利用可能な井戸ポンプの設置や、防災訓練での活用を想定している。【事務局】

・ 細かい点ではあるが、指標として、特定の植物(コバノミツバツツジ)の本数を指標とするのは生物多様性の観点からいかがなものか。【委員】

⇒ コバノミツバツツジについては、生物多様性地域戦略の検討の中で、ナラ枯れ後の代替植栽として、ほかにも候補は抽出している中で、代表種として挙げているもの。なお、コバノミツバツツジについては、現在、試験植栽してその経過のモニタリングを実施しているところである。【事務局】

・ 子育てに関連して、みどりに関するジュニアリーダーの育成といったことも、もっと積極的にしてはどうか。【委員】

⇒事例として、樹木の名札付けを「トライやるウィーク」で中学生と連携して実施している。こうした取組については行政が仲介役を担っていただくことが期待される。公園をきれいに使うという観点からも、子どもは自分たちで作ったものは住民に大切にされると思われる。【委員】

⇒ 一般的に、人口流出の原因は大学進学がきっかけとも言われており、高校までに地域活動を行うことが人口流出対策になり得るといった話もある。【委員】

⇒ ジュニアリーダーの養成に関して、いろいろなプログラムに参加した経験を持つ子どもたちに、少し学年が上がって、今度はリーダーの役割を担ってもらうといった流れをつ

くられるとよいと考えられる。【委員】

② 素案について

・ 「第６章 計画の円滑な推進に向けて」の中の「(2)事業者が担う役割」に関して、昨今の SDGs にも「11 住み続けられるまちづくりを」といった項目が挙げられていることから、CSR に留まらず、こうした視点もふまえて記載してはどうか。【委員】

⇒ 事業者が担う役割に関して、CSR のみならず、従業員に対する教育や、福利厚生での健康確保、在職中からリタイア後の生活に向けた地域との関わり強化といった内容についても含め、幅広く積極的に巻き込んでいく視点で記載していってもらいたい。【委員】

（４）2019 年度 計画改定スケジュールについて

・ 第５回、第６回改定検討会の開催日程については、調整の上、後日連絡する。

以上